

# 令和8年度 江東区立深川第四中学校 学校経営方針

校長 関根 淳之

## 《はじめに》

令和8年度の江東区立深川第四中学校の教育活動は、「知」「徳」「体」の調和のとれた人間を育成することを主眼とし、本校教育目標の達成に取り組む。生徒一人一人に、自ら学び考え行動する力、社会の発展に貢献する力、変化の激しい社会を生き抜く力を培うためには、「知」「徳」「体」をバランスよく育むことが不可欠であると考えます。

本校の教育目標は

- ・英知（自ら学び考える生徒）
- ・博愛（自他を愛する生徒）
- ・壮健（健やかな心身を保つ生徒）

であり、まさに知・徳・体の育成が柱となっている。この目標達成のために、学校全体で生徒一人一人の「知力」「徳力」「体力」の向上に取り組んでいく。教員として研さんを重ね、より確かな授業力・指導力を身に付け、常に「全生徒のために」を心がけ、本校に通学する生徒一人一人のために全力を尽くす。さらに、目指す学校像である「**生徒・教職員に笑顔あふれる深川四中**」を目指して教育活動を展開し、生徒はもちろん、保護者・地域からも信頼される学校づくりにまい進していく。

授業改善は私たち教員の使命である。変化の激しい社会の中で、答えのない課題に向き合い、豊かな人生を切り開いていく生徒のために、主体的に学習に取り組み、知識を活用して考え、**できた、わかった喜びを実感できる授業への改革・改善**に、教職員が一丸となって取り組んでいく。この取組の中で、授業中に**生徒がかがやく**場面を多く設定し、生徒の学力を伸ばし、私たち教員自身の授業力も向上させる。

いじめや不登校児童生徒数の増加は、学校教育が直面している大きな課題の一つであり、対策として相談活動の充実が重要である。相談活動を通じた心の教育を充実させ、生徒の不安や悩みを早期に把握、解決に向けて取り組んでいく。江東区が進めている「Action24」～悩みがあれば、その日のうちに～をあい言葉に全教職員、全生徒で心がけ、実践し、早期発見・早期対応や未然防止につなげていく。

このような取組から、すべてのこども（生徒）が身体的・精神的・社会的に幸せな状態（ウエルビーイング）で生活を送ることができる深川第四中学校としていく。

今年度の重点については以下の2点とする。

- 1 生徒が主体的に学ぶことができる授業の実践と生徒の更なる学力向上
  - ・「生徒が主体的に学習する授業形式」を実践する。そのために教師はファシリテーターの役割を担い、生徒間でやりとりをしながらさまざまな知見を生み出すような関係性を促し、生徒に学ぶ喜びや楽しさを実感させ、生徒がかがやく場面を設ける。
  - ・教科交流授業研究の日、区中研、若手研修等の研修を通し、教員の授業力を向上させ、生徒の学力向上へとつなげる。
  - ・教育推進プラン・江東（第3期）の実践や、こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）の確実な定着を図る。
- 2 心の教育や相談活動の充実
  - ・いじめや不登校など、学校が抱える課題の解決（未然防止）に向け、心の教育や相談活動の充実を図る。SCによる相談や、担任や学年教諭との相談、オンライン相談など、相談の機会を増やし、生徒が相談しやすい体制を作る。
  - ・不登校対策として、多様な学びの場（ブリッジスクールへの通学、校内教育支援センター〈校内別室指導〉など）での学習や、SSWによる家庭訪問などを活用し、不登校の解消に向けて取り組む。

## I 教育目標

学校は小さな社会と捉え、生徒が心身共に健康で自ら考え実行できる学校を目指す。生徒の自立と自律を目標に、自分の可能性を追求しながらグローバル社会を生き抜く資質・能力を育成するため、次の目標を設定する。

- 英知（自ら学び考える生徒）
- 博愛（自他を愛する生徒）
- 壮健（健やかな心身を保つ生徒）

## II 目指す学校像

### 「生徒・教職員に笑顔あふれる深川四中」

- 1 生徒一人一人が学校生活を楽しんでいることができる学校
- 2 生徒一人一人が大切にされる魅力ある学校
- 3 生徒と教師が信頼関係を基盤に一体となって進む活力のある学校
- 4 生徒が自慢でき、卒業生が誇れる学校
- 5 保護者から信頼され、地域と共に生徒を育てる学校

## III 目指す生徒像

- 1 自立して学び、考え、判断し、行動できる、個性と想像力豊かな生徒
- 2 自他の人権を尊重し、人としての思いやりや道徳心のある生徒
- 3 「あ・じ・み」（あいさつ、時間を守る、身だしなみ）を主体的、組織的に実践する生徒
- 4 基礎的な体力を身に付け、自分の体を大切にする、心身ともに健康な生徒
- 5 何事にも前向きに意欲的に取り組み、努力する生徒

## IV 目指す教職員像

- 1 「チーム深川四中」として組織的に職務を遂行し、組織目標の達成に向けて一致協力する教職員
- 2 教育公務員としての自覚をもち、責任をもって職務の遂行に努める教職員
- 3 生徒のことを第一に考える教職員
- 4 学校経営への参画意識をもって職務に専念する教職員
- 5 自ら研修に励み、自己の資質・能力の向上に努める教職員

平凡な教師は言っただけで聞かせる。

よい教師は説明する。

優秀な教師はやってみせる。

しかし最高の教師は子どもに心に火をつける。

## V 本校の特色ある教育活動

- 1 「生徒・教職員に笑顔あふれる深川四中」を実現します。
- 2 インクルーシブ教育の考えを基にした生徒理解と支援を行います。
- 3 「あ・じ・み」（あいさつ、時間を守る、身だしなみ）を合い言葉とした、落ち着いた学校生活を継続していきます。
- 4 講師を招聘しての「平和学習」講演会を実施します。
- 5 生徒に「生きる力」の育成を目指します。
- 6 体力の向上を目指したスポーツ活動の充実を目指します。

## VI 経営基本方針

### 1. 学力の向上

- ①各教科で生徒が主役となって主体的に学びあうことができる授業、生徒の知的好奇心を高める授業を実践する。そのために、生徒が授業に集中でき、学習意欲や言語能力を高められる指導法を工夫する。
- ②教育推進プラン・江東（第3期）の趣旨にある、生徒一人一人の個性の伸長、多様性の包摂に重きを置き、生徒全員が「みんな、かがやく！」教育活動を展開する。また、こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）の確実な定着を図る。
- ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・改革に努める。全教科で言語活動、話し合い活動、発表等を取り入れた授業を実践し、授業を工夫する。そのためにも常に意欲的に前向きに教材研究を行い、授業改善・改革に努める。
- ④教員が互いに授業を見せ合い、研さんし合える場と雰囲気を作る。  
今年度の深川四中の校内研修テーマは、「授業スタイル」（四中授業スタンダード）の確立と「ふり返り」の充実である。授業スタンダード（ねらい→見通し→生徒主体的の学習→ふり返り）の確立に向けて、前期は教科内で、後期は教員を少人数班に分け、その中でお互いに授業を見せ合い、授業力の向上を図る。
- ⑤総合的な学習の時間では探求学習を行い、諸課題に対して一人一人が意欲的に取り組み、感動をもって解決が得られることを目指す。
- ⑥今年度更新された生徒一人一台端末をはじめ、ICT機器を活用した授業を実践し、生徒同士の意見交換や意見発表の場を充実させる。昨年度、ICT教育推進校として取り組んだ成果を生かし、より効果的な活用を探り、実践する。

### 2. 豊かな心の育成

- ①生徒の実態、学校・保護者・地域の願いに応じた道徳授業を推進する。
- ②豊かな道徳的心情、確かな道徳的判断力、着実な道徳的实践力の育成を図る。
- ③「考え、議論する道徳の授業」や「問題解決的な道徳の授業」、「体験学習的な道徳の授業」を実践し、生徒の道徳性を養い、道徳的实践力を育成する。
- ④生命尊重の教育、自殺予防教育を実践し、自他に対する思いやりの心情育成に努める。
- ⑤いじめについて考え、いじめが許されないことを自覚させることを「ねらい」とした授業を実施する。
- ⑥道徳授業地区公開講座では、生徒のみならず保護者・地域の方々にとっても学びがいのある道徳授業を行う。また、意見交換会で地域・保護者の意見に真摯に耳を傾け、道徳授業地区公開講座を充実させるとともに、道徳の授業の改善に努める。

### 3. 健やかな体（体力向上、健康増進）

- ①人生100年の時代となり、生涯にわたり運動に親しみ、健康増進を考える態度を育成する。
- ②体力スタンダードを活用し、保健体育科の授業でのウォームアップタイム等の取組を通し、体力の向上を図る。
- ③運動やスポーツに親しむ習慣と意欲を育成する取組を推進する。

### 4. 研修、教職員

- ①今年度の校内研修テーマを「授業スタイル」（四中授業スタンダード）の確立と「ふり返り」の充実とし、そのテーマに沿って研修担当を中心に研修を進めていく。

- ②それ以外にも、様々な学校・教員や他の教育機関から積極的に学ぶという姿勢を常にもち、次のような研修を推進する。
  - ・本校の教育課程を踏まえた研修
  - ・本校が抱える課題の解決に向けての研修（いじめ、不登校対策を含む）
  - ・生徒理解（特別支援教育を含む）に関する研修
  - ・ICT活用の研修
- ③OJT等を活用し若手教員の育成に励む。また、その育成で行われる指導を通し、中堅・ベテラン教員の資質向上も図る。
- ④職員室の雰囲気大切に。教職員は明るく元気な、前向きな姿勢で、生徒とのふれ合いを大切にする。教職員は一丸となって教育活動に取り組む。（笑顔あふれる深川四中）
- ⑤教育公務員として常に服務規律を遵守する。さらに、サービスの厳正を意識し、服務事故をゼロとする。

## 5. 特別支援教育

- ①学校行事などにおける通常学級と特別支援学級との連携・協力を図り、一体感がもてる活動を行う。
- ②インクルーシブ教育の考えを基にした生徒理解と支援を行う。
- ③特別支援を必要とする生徒の能力や特性を最大限に伸ばしていくために、障害の種別や程度、発達段階に応じたきめ細やかな指導を実践する。また、教育的ニーズに応じた適切な教育環境の整備に努める。
- ④特別支援を必要とする生徒のために、「つばさ教室」を活用した巡回指導等、計画的かつ効果的な指導を行う。
- ⑤特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援委員会の充実を図る。

## 6. 特別活動

- ①生徒が主体的に取り組む学校行事の実施から、生徒の自主性を引き出し、充実感、達成感を味わわせる。
- ②生徒会活動を通し、生徒に帰属意識や仲間意識を深め、自主性や社会性を育成する。
- ③部活動の活動内容の充実を図り、文武両道を実践する。部活動の地域連携（地域移行）については、江東区の計画に則り進めていく。

## 7. 校内の環境整備及び美化

- ①教員と生徒が共に美しい言語環境を整備することに努める。
- ②教育の場としてふさわしい教室環境等を整備することに努める。また、常に校舎内外の美化に努め、きれいな状態を維持する。
- ③校内掲示や放送を通し、情操的環境づくりに努める。
- ④校舎内外に破損箇所を見つけた場合には、すぐに管理職と生活指導主任に報告し、至急修理し、生徒が安全・安心な学校生活を送れるようにする。

## 8. 信頼される学校・地域との連携

- ①地域密着型という特色を生かし、保護者や地域の方々と広く連携をとり、開かれた学校づくりを進める。
- ②保護者、地域にとって安全・安心な学校づくりに努める。（学力の向上、いじめがない、不登校ゼロ、食の安全）
- ③幼保小中や中高の交流・連携を深め、円滑な接続を目指した教育活動の充実を図る。
- ④次年度、本校は開校80周年記念の周年行事を行う。また、コミュニティースクールとなる。これらの準備を保護者、地域とともに進める中で信頼を育む。（学校はより信頼されるよう、要望に対する真摯な対応、教育活動のPRなどを行っていく）

最後に…

**◎学校経営を推進する上での私（関根）の判断基準**

校長として次の基準をもとに総合的に判断し、最終決定をしていく。

- それは生徒を育てることになるのか
- それは保護者の願いか
- それは社会の常識か、地域の方々の思いか
- それは公務員として適正か（法・条例・学習指導要領 など）
- それは教職員にとって
  - ・資質、指導力の向上につながるか
  - ・協力体制につながるか
  - ・やりがい、達成感を得られるか
  - ・働き方改革につながるか